

くすりと健康のはなし

薬包紙

第117回

医療保険委員会委員

一般社団法人岐阜県薬剤師会

増田千穂



寒さが厳しく空気が乾燥する冬。なんだか熱っぽい、喉が痛いなど、「もしかして、風邪?」と思われることが多くなるのではないのでしょうか。そんな時、市販の風邪薬（総合感冒薬）を買って対処する方も多いと思います。

市販薬も病院で処方された薬にも、風邪を根本的に治す効果はありません。風邪の80〜90%はウイルス感染が原因といわれていますが、風邪に有効な抗ウイルス薬はまだありません。総合感冒薬は、ウイルス自体をやっつけるものではなく、風邪のつらい症状を和らげるためのお薬です。総合感冒薬には、熱、喉の痛み、咳、鼻水などさまざまな風邪の症状を和らげるため、複数の成分が配合されています。例えば、熱や痛みを改善するための解熱鎮痛薬、鼻水やくしゃみを和らげるための抗ヒスタミン薬、咳を抑えるための鎮咳薬、痰を排出するための去痰薬などが配合されています。それぞれ配合されている成分が異なるため、その時の症状に合わせて薬を選ぶことが大切です。咳や鼻水がなく、熱や喉

自分に合った風邪薬を選びましょう!

の痛みの症状が強い風邪の時には、総合感冒薬ではなく解熱鎮痛薬の服用で十分なこともあります。

また、持病やアレルギーがある方は注意が必要です。総合感冒薬の中に含まれている抗ヒスタミン薬の中には、前立腺肥大症の方が服用すると尿が出にくくなった、一部の緑内障の方が服用すると眼圧が上昇したりするものがありますので、服用前に確認するようにしてください。

他の薬を飲んでいる方も注意が必要です。異なる目的で飲んでいる薬でも、実は成分が重なっていることがあります。抗ヒスタミン薬は、総合感冒薬以外にも花粉症や痒み止めの飲み薬としてもよく用いられます。併用してしまうと成分が重なってしまい、眠気など副作用が強くなってしまふことがあります。その他にも、頭痛や腰痛などの痛み止めと併用する場合も注意が必要です。

どの総合感冒薬を服用すれば良いのか悩まれた時は、お気軽に薬剤師にご相談ください。